

きんもくせい

令和2年 学校教育だより

September 9 第346号

(年4回発行)

編集・きんもくせい編集委員会
発行・埼玉県富士見市教育委員会
電話・049-251-2711 (内線623)

編集目標 人間尊重の教育を求めて



「中学部の畑より」

写真提供/特別支援学校

「小さな翼」

富士見台中学校3年

山崎 遥加

果てしない空
何があるのか
わからない
希望という名の翼をつけて
小さい飛行機
飛ばしてみよう
あきらめの風
悲しみの雨
小さな翼は飛び続ける
おそれないで
逃げないで
いつしか虹の橋
夢という名の宝物
たどりつけるよ
信じてる

生徒の可能性を広げるために

「なぜ英語を勉強するのですか?」「英語なんて勉強しなくても生きていけるじゃないですか?」毎年のように生徒にぶつけられる言葉です。私はいつも「英語は使えなくても生きていけるけど、使えれば自分の世界や可能性を広げられるよ。」と答えています。日本でもグローバル化が進み、生活の中にはたくさん外国のものがあり、外国の方とふれ合う機会も多くなりました。このような時代に生きていく中で、外国とのつながりを無視して生活していくことはできません。英語はコミュニケーションをとるための道具です。英語を使えば、より多くの人とコミュニケーションをとることができます。多くのことを知ることができます。地球上にはまだ知らない興味深い世界がたくさんあるということに気づくことができます。生徒の視野を広げ、未来の可能性を高めるために英語を使って伝え合う楽しさ、コミュニケーションの楽しさを一人でも多くの生徒に感じてもらいたいと思っています。

“Have fun with English!”

～コミュニケーションの楽しさを味わう授業作りを目指して～

指導者 富士見台中学校 教諭 須藤 純子

語彙力をつける

「とにかく単語さえ知っていればどうにかなるー」生徒によく言う言葉です。コミュニケーションをとるための第一歩は単語を覚えることです。単語の知識と、伝えようとする意思があれば、大抵のことは相手に伝わります。英語の学習には「話す」「聞く」「読む」「書く」という四領域がありますが、どの領域にとっても語彙力をつけることは欠かせません。授業ではフラッシュカードを使って発音や意味を確認し、BINGO ゲームやボンバーゲームのような活動も取り入

実践の場を設定する

言語は授業を一時集中して受けたからといってすぐにマスターできるわけではありませぬ。適切な場面で繰り返し使うことによって、少しずつ定着していきます。そこで授業の中では意図的に英語を使わせる場面をつくり出します。たとえば、落とし物を見つけたら、「Whose pen is this? It's mine!」プリントがほしければ、「Give me a worksheet please. Here you are!」このようなやりとりを何度も繰り返していくうちに生徒は段々

会話をしたくなる内容設定

英語の授業では話す活動がたくさんあります。話す活動を行う際には「生徒が意欲的に活動に取り組みたくなる内容は何か」という部分をじっくり考えます。たとえば、「Which do you like, A or B?」という文をマスターさせたい場合は、山と海



諏訪小学校 6年1組 小林 凜太郎

漢字の取り組みについて

今、新型コロナウイルス感染症が流行していて、新しい生活様式が求められています。ほくたち諏訪小学校の6年生は清掃の時間に人数を減らしてそうじをしています。そうじをしないで教室に残っている人は、漢字の力を上げるために漢字プリントに取り組んでいます。この漢字プリントは1年生～6年生まで学年別に取り組むことができるようになっていて、毎日続けることによって漢字を少しずつ覚えることができます。まだ今までのような日常生活には戻っていませんが、この取り組みを続けて漢字の能力を高めていきたいです。



という気持ちになるような内容設定を心がけています。



が終わると「伝わったー」と笑顔で報告に来てくれます。英語が通じたという成功体験の積み重ねが「伝えたい」という意欲の向上につながっていきます。



終わりに

今年度から小学校で英語が教科化され、来年度からは中学校でも学習指導要領が改訂され、英語教育の充実が求められています。これからはより豊かな英語力を身につけることが重要になってきます。単に英語の知識をつけるだけではなく、場面や相手に応じてどのような言葉を発信していくかが大切になってきます。生徒が英語でコミュニケーションをとれる場は限られています。だからこそ、一回一回の授業計画を十分に練り上

げ、お互いをよりよく知るための一つのツールとして英語を学ばせていきたいと考えています。そして、すべての生徒に英語を使って伝え合う楽しさを感じてもらいたいと思っています。

英語から広がる新しい世界

富士見台中学校 校長 堀川 博基

「グローバル化」という時代に生きる生徒にとって、コミュニケーションの大きなツールとして英語は機能を発揮します。須藤教諭の言う「英語は自分の世界や可能性を広げる」は、英語を学ぶことの大きなモチベーションになります。

須藤教諭の授業には生徒の豊かな表情が現れます。まずは「笑顔」が溢れます。それはリズムのある流れの中に生徒が自分を表現するエッセンスが詰まっているからです。「緊張」が走ります。それは、工夫された教材に生徒が集中し、エクササイズにのめり込むからです。「感動」が生まれます。仲間との交流を通して自分の考えや価値観を英語というツールにより表現するからです。様々な表情の現れる須藤教諭の授業は、生徒の心に響き、確かな英語力を育む授業だと確信しています。

特別支援教育

一人一人が輝くためのUD

勝瀬小学校 教諭 細川 翔平

ユニバーサルデザイン(以下UD)という言葉は、今やほとんどの人が耳にしたことがあるのではないだろうか。「ユニバーサル」とは「普遍的な・全体の」ということを示し、これを学校教育に当てはめると「全ての生徒たちのためのデザイン」を意味します。いわば、一人一人に応じた指導・支援を行うということです。

さらにUDは、どの子にとっても「あると便利な」支援といわれています。このような支援は特別支援学級に限らず通常学級にも必要な支援です。通常学級でUDが取り入れられることで、全ての生徒たちがより安心して学校生活を過ごすことができます。一人一人がよりよい環境で学習できることで、集団としての学びがより深まり、学力の向上に繋げることができると考えるからです。UDに対する意識を高めることは、今後の学校教育の課題の一つと言えます。

縁を大切に

西中学校 保護者 吉原 智博

昨年、母校である野球部と交流試合を行った。校長先生が中学時代の野球部の恩師であったことが縁で、実現したことであるが、遡るともっと昔にも、交流試合をやっており、その時の対戦相手だった中学生たちと今では同じチームでプレーしているのも、不思議な縁であると思う。

私には、三人の娘がおり、「女子野球も珍しくないのでは？」と期待してはみたものの、その夢はかなわなかった。それでも、娘の同級生と野球の試合をすることができたり、対戦相手のチームに娘の学校の先生がいたりすることは、野球というスポーツの魅力であると思っている。

PTA活動を通して出会った方々とも、その後の野球観戦を通じて付き合いが続いているのも同様に思っている。

昨年、一昨年と小学校で特別授業を行ったときに、将来の仕事として、夢を仕事にすることだけでなく、自分がやりたいことを続けるために、仕事を選ぶという選択肢があることを話した。

私自身の実体験に基づく話であるが、妥協で仕事を選んだのではなく、やりたい仕事というよりも、自分に合っている仕事として選んだのである。今では責任のある立場を任されている。

今年は、新型コロナウイルス感染症の影響で、部活動の練習成果を発揮する場面が多く失われており、とても残念に思っている。でも、続けていけば、新しいことにチャレンジする際、発揮できる場面はきつとくる。それを実現させるために、今後も先生と親が力を合わせればよいのだから。



家族で過ごす時間が増えたので、夕方のジョギングを日課にしたり、家事を子どもたちにも分担したりして、家族の時間を大切にして過ごしました。

緊急事態宣言が解除されましたが、感染が落ち着く気配は感じられません。正直この先どうなるか不安です。子どもたちにも、今しかできない経験をさせてあげたいという気持ちもあります。心と体が健康でなければできません。皆さまの手にこの冊子が届く頃には、少しでも平和な日々を送ることができるようになっ



ています。

当たり前前のごくくを大切に

関沢小学校 永嶋 希美

「今、本当にそうじ中なんですか。」

掃除中に本校を訪れた人は子どもたちの掃除の様子を見て驚きます。

関沢小では「もくもく清掃」を合言葉に時間いっぱい言葉でなく目で合図をしながら掃除をします。ほうきでゴミを集める子、雑巾がけをする子、それぞれが担当することを実際にタイムングよく動き、当たり前前のごくくを大切に

います。入学したばかりの一年生たちも、周りで掃除をしているお兄さんやお姉さんたちの姿を見て、少しずつ真似をして学んでいきます。

最後まで黙って掃除をすることで、一つのことに集中して取り組む力がつきます。また、最後までやり遂げる力がつきます。

新型コロナウイルス感染症の影響で、今までの日常とは違う生活が求められる今だからこそ、目の前にある当たり前前のごくくを大切に

育ってほしいと思います。



育ってほしいと思います。

教育課題特集

はぐくむ

～学校・家庭・地域から～

生きる力を

「児童生徒に寄り添う給食づくり」

富士見特別支援学校 栄養教諭 佐々木 奈々

本校に赴任して、四ヶ月目に入りました。これまで、給食センターに勤務しており、本校は、自校給食の本校は、手の届くところに児童生徒がおり、毎日給食を心待ちにしてくれている様子が伝わってくる職場です。そこで、次のことを心がけながら給食づくりをしています。

視覚支援への配慮

ランチルーム等の食育に関する掲示物は、決められた場所にしています。

本校では、自動食器や、形状の変ったスプーンの利用や、ミキサー食・刻み食等の再調理の工夫をしています。先生方と相談し、ペーストの



お粥に少し米粒を混ぜてみたところ児童が食べることで、とても嬉しく思いました。これからも児童生徒に寄り添った給食づくりを行っていきたく思います。

貴重な家族時間

関沢小学校 保護者 熊谷 麗

三月以降、新型コロナウイルス感染症拡大防止による休校という事態になり、今までの当たり前前の生活ができなくなりました。

我が家も例外ではありません。主人の在宅勤務、子どもたちの休校と、気づけば終日家族が家にいる状況が続きました。

私には、中学二年生と小学五年生の息子がいます。昔からとても仲がよいのですが、

上の子が中学生になり生活スタイルが変わったことで、以前のように一緒に過ごす時間は減っていました。それが今回の休校期間中、一緒に過ごす時間が急に増えたのです。年齢的に関係に変化があるのかなと思っていたのですが、気づけばソファで寄り添い、テレビを見たりゲームをしたり。体は大きくなっても相変わらず仲良しな二人を見て、母として微笑ましく感じました。

健康は一日にしてならず

富士見市総合体育館館長 関戸 健一

運動とは一言で言うとは何でしょうか。それは「体を動かす」という事です。

皆さんは何故、運動するのでしょうか？「楽しいから、それとも健康のため？」ストレス発散になるから…。」目的は十人十色です。何となく運動は体によいと理解されている人は多いと思いますが、何故よいか具体的に考えた事のある人は少ないと思います。

体を動かす事はいろいろな効果が期待できるのです。まず、脳の活性化です。運動するときは脳から電気信号が出て筋肉を動かします。脳は筋肉と同じで使われないと衰えてしまいます。ただし、使えば刺激になるのです。

次に神経が活発に働けば、自律神経の働きがよくなりバランスが整います。血流もよくなり運動の種類によっては筋力や持久力も変化していきます。

では、反対に運動しないとどうなるのでしょうか？

関節の可動域（柔軟性）が狭くなり筋力が落ちます。血

行も悪くなり自律神経の働きが抑えられ、ホルモンバランスが崩れていきます。

以上のことから運動の大切さを理解していただけたのではないのでしょうか。

今日の運動が明日の結果と感ずるのは筋肉痛ぐらいのものなのかもしれませんが、結果は半年や一年後、その先に現れます。

未来を決定するのは現在の積み重ねです。健康で長生きするために運動を継続して未来を変えていきましょう。





富士見台中

3, 2, 1, 0で大ジャンプ!

今年は、感染防止対策に努め規模を縮小した体育祭。距離を保ちながらも、台中生全員で心を合わせ最高の体育祭を目指します!



水谷小

ミニトマトができました

今年もたくさんのミニトマトができました。子どもたちも暑さに負けず、元気いっぱいです。



つるせ台小

ウッドデッキから響くハーモニー

つるせ台小学校では、新型コロナウイルス感染防止の観点から、半屋外で間隔を広くとって授業を行う工夫をしています。

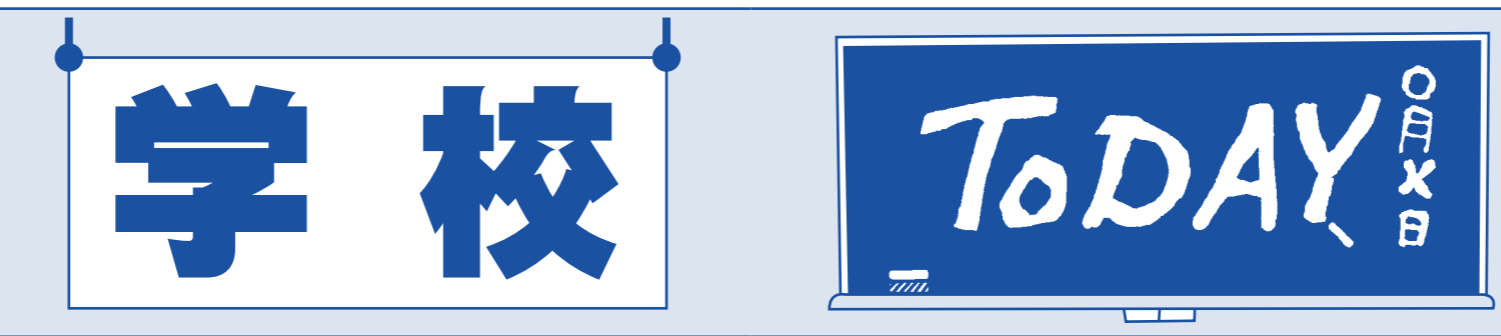
例年とは違い、十七日間の短い夏休みが終わり、二期期が始まりました。新型コロナウイルス感染症の影響により学校行事等においては、様々な実施形態を模索しているところですが、子どもたちの健康や安全に気を付けながら、充実した実りのある学びの場を整えていきたいと考えています。様々な活動を行う中で、子どもたちが自分に自信をもてるように、各学校ごとに特色ある教育活動に取り組んでいきます。保護者の方や地域の方の力を借りる場面も多くなりますが、ご支援ご協力の程よろしく申し上げます。



南畑小

地域探検

3年生が、地域探検で難波田城公園に出かけました。南畑地区の歴史にふれることができました。



水谷中

伝統の火を絶やさない! 「水中・よさこい」

延期・縮小して9月の開催が決まった「体育祭」伝統の「よさこい」も全校生徒ではなく、3年生だけで踊ることになりましたが、後輩に引き継ぐためにも全力で練習に取り組んでいます。



本郷中

合唱練習スタート

音楽で合唱の授業が始まりました。大きな口を開けて歌ってもシールドがあるから大丈夫。向き合って、姿勢や声の出し方の確認もしっかりできます。



ふじみ野小

ヤゴを育てています!

3年生は、プールにいたヤゴをここに広場で育てています。羽化する姿は感動的です。



富士見特別支援

レインスティックで夏を感じよう

中学部の音楽では、雨の音や波の音のような、優しい音色を楽しみながら、レインスティックの演奏をしています。



鶴瀬小

分散登校の時のメッセージカード

登校が始まって会えるのは、限られた友達。会えない友達に向けて、メッセージで心をつなぎました。

顔たち……一冊目よりも意味が増えました。特に④の野球などで使われている「マスク」は普段から関わっていないとなかなか出てこない意味ではないでしょうか?今回児童向けの『辞書』を使って調べましたが一般書籍になると更に増えている意味もあります。もしよろしければ一度お手元の『辞書』で引いてみてください。

先の二冊の使用感を比較してみます。一冊目の小学館の『辞書』は意味こそ二冊目より少ないですが、ページの下部に元号や世界遺産が乗っており、ちょっとした解説もあります。更に、最後のほうにふるくのページがあります。内容がとても充実しています。「十歳までに覚えたい難しいことば千」という、明確な目標を立ててくれるので、身近なものとして興味を引いてくれます。三省堂の『辞書』はどうでしょうか?こちらの『辞書』は、文字の大きさや色使いがシンプルで見やすく、長時間使っても苦にはならないでしょう。下部にはことわざや慣用句なども載っており、簡単なことわざ辞典の役割も果たしています。

最近の辞書はオールカラーで単語によってはイラストがあり、イメージをしやすくしています。実際に自分で使うならどちらが向いているのでしょうか?『辞書』の魅力はまだまだ語りきれませんがぜひ一度見比べてみてください。

この度ご縁があつて、おすすめの本の紹介をさせていただくこととなりました。今回は、『辞書』を二冊紹介させていただこうと思います。最近ではインターネットで調べればすぐに意味などが調べられるので、授業以外では使ったことがないという方も多いかと思われます。しかし、インターネットでは味わえない奥深さというものがある『辞書』にはあります。例えば最近よく目にする、「マスク」という単語。風邪予防の道具以外にも意味があります。実際に図書館所蔵の『辞書』で引きました。一冊目の『小学館例解学習国語辞典第十一版①面・仮面②ほこりやばいさんをふせぐため、鼻や口をおおふもの③顔……とあります。最近ほとんど②の意味ばかりで使っていますが①や③の意味が使われているのを見聞きしたことがあると思います。実はマスクの意味はこの他にもあります。『三省堂例解小学国語辞典第七版』では、①お面・仮面②ほこりなどを吸わないように、口や鼻をおおう布③ガスなどを吸わないように、消防士などが顔につけるお面。防毒面④野球・ソフトボールで、キャッチャーや球審が顔につけているお面⑤顔。

中央図書館より
辞書を開いて
富士見市立中央図書館 小坂 瞳

教育委員会だより

<11月1日は「彩の国教育の日」>

県では、教育に関する理解を深めていただくため、11月1日を「彩の国教育の日」、11月1日から7日までを「彩の国教育週間」としています。

例年、県や市町村、学校、社会教育施設、各種団体等で、学校公開や親子向け体験教室などの事業を多数実施していますが、今年度は、コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、多くの事業が自粛されています。このような状況だからこそ、家族と「自然」「人」「本」「家族」「地域」の大切さや思い出について語り合ってみませんか。ほっこりした話題で、元気で明るい気持ちになる教育週間にしましょう。

○詳しくは県ホームページを御覧ください。

<リンク先>

<http://www.pref.saitama.lg.jp/f2215/kyouikunohi/>



11月1日は、彩の国教育の日

身近な人と「自然・人・本・家族・地域」の大切さや思い出を語り合ってみませんか？

昨年度の「彩の国教育週間の取組」を紹介します。

水谷東小学校

南畑小学校



「いじめのない学校づくりの日」の様子



音楽会「赤とんぼ発表会」の様子

お詫びと訂正

7月号(345号)P3「特別支援教育」の「小中交流会で滑らかに」に執筆いただいた本郷中学校柴崎美架教諭の原稿中で「特別支援学級小中交流会」が「特別支援学校小中交流会」になっておりました。訂正してお詫びいたします。

(辻口)

わたしは、気になると、どうしてもそのことだけに縛られがちになってしまいます。こんな状況の時だからこそ、キリンのように、広い視野で、周りをゆつたりと眺めながら、豊かな時間を過ごしたいものです。

例年なら夏休みだった中の八月十八日から始まった今年の二学期も、スタートしてから一ヶ月が過ぎました。夏の暑さにも負けず、元気に登校してきた子どもたちは、ほんの少し合わない間にも、たくましく成長したように感じます。

夏休みに入る頃、「マサイキリン」の赤ちゃんが誕生したというニュースを見ました。「マサイキリン」は、日本の動物園に七頭しか飼育されている希少な種です。わたしたちが普通「キリン」といって思い浮かべるのは、「アミメキリン」です。昔は、キリンはこの「アミメキリン」一種とされていたようですが、現在は、ドイツの研究者により四種とされています。「アミメキリン」は、日本のあちこちの動物園で見ることができ、百六十頭以上が飼育されているそうです。

四月八日、二年二組のメンバーは初めて顔を合わせました。教室には凄まじい緊張感が漂っており、黒板に向かい、子どもに背を向けると、全員いなくなってしまうのでは



は再スタートを切りました。始まってみたものの、今年度はたくさんの行事が中止となってしまいました。一学期を振り返ってみると楽しい時

練習がスタートすると一生懸命に縄を回し、活き活きと楽しそうに跳ぶみんなの姿がありました。本番でよい記録

や合唱祭が予定されています。二組なら、どんな困難も乗り越え、素敵な想い出を紡いでいくことができると思います。

間が削られて、我慢しなければいけないことがたくさんあったと感じます。そんな学期の最後に、学年レクで8の字跳びを行いました。「他クラスと比べても静かな印象の二組は大丈夫なのだろうか。」と密かに心配をしていました。

二学期には SPORTS DAY や合唱祭が予定されています。二組なら、どんな困難も乗り越え、素敵な想い出を紡いでいくことができると思います。

を、出そうと真剣になる中で、縄に引つかかってしまっても笑顔を絶やさず「大丈夫」「切り替えよう。」と前向きな言葉が自然と飛び交いました。クラスの子みんなに笑顔があふれました。結果は七クラス中二位。二位という順位に「もつと跳べたのに。」と悔しがっている子もいましたが最後は私も子どもたちもとても喜びました。

みんななら大丈夫

勝瀬中学校 教諭 嶋崎 深香

編集後記

わたしは、気になると、どうしてもそのことだけに縛られがちになってしまいます。こんな状況の時だからこそ、キリンのように、広い視野で、周りをゆつたりと眺めながら、豊かな時間を過ごしたいものです。